

理事長ご挨拶

## すみわけの世界を求めて

深川高齢者センター21 理事長 前川 正雄



当財団の前身は平成 9 年に前川製作所が出資し、認定を受けた公益財団法人であります。設立主旨は以下の通りです。

「人口の減少と高齢化が急速に進展する中で、日本が今後とも活力ある社会経済の維持・発展を目指していくには、出来る限り多くの高齢者が社会に支えられる側ではなく、社会を支える側にいる必要が出てきます。このことは冷厳な事実です」

「このような観点から、企業・行政機関と緊密な連携を保ちながら、高齢者の勤労意欲と能力に応じて、多様な就業ニーズに応える短期的な雇用の場を確保、提供することによって高齢者社会における勤労者の福祉の増進を図るとともに、わが国の経済並びに社会に貢献する」

前川製作所は創立以来定年になっても辞めずに勤める社員がほとんどでした。

これは、年とともに成功、失敗の経験から生み出される成熟した社員の知恵から会社の特長が出てくるということを学んでいたからです。

前述のように、これをシステム化しようとして始まったのが、この財団です。

やりながら分かってきたことは、高齢者の問題は 50 代、40 代の問題であるし、同時に、この問題は 30 代、20 代の問題であるということでした。また、前川製作所の新入社員は全員が、3 年間寮生活を通して共同体を学ぶと同時に、3 年

生になると自分の今後 30 年間は何を目指すかという論文を書いて 3 年間の研修を終えます。

これは、自分の特長を出すことにより、所属している共同体の特長が出て、これが企業の特長となり、その結果として、すみわけの世界をつくりつづけ、ハイテク技術製品を世に出すことになり、無競争社会に近づくと考えているからです。

競合とのフリクションを極力減らし、その分、市場との共創にエネルギーを回そうというのが、基本戦略だからです。幸い、大量生産、大量販売の 20 世紀は先進国内では終わり、市場は 20 世紀で供給できていない技術を求めています。これは膨大な市場を形成するのですが、このハイテク性を提供するためには、自社だけでなく、顧客や関係する会社を含めた共同体の中から創り出す以外にありません。それは世界に二つとない知恵（技術）でなくてはなりません。

この中で高齢者の力は大変主要な部分を占めています。

もちろん、動の新しい知識、センスは高齢者の感覚知と混ざること、企業全体のすみわけ世界を進めて長期的な生存を可能にし、社会からより一層期待される企業になっていくと考えています。

是非、皆さまとともにこの動と静が融合するシステムを創っていきたくて考えております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。